

# 新年のご挨拶

## — 伝統と革新 —

院長 沼尾 利郎

あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は当院にとって「大きな変革の年」でした。3月には病棟・外来・管理棟や敷地整備を含めた「病院の全面建て替え」が機構本部から承認され、2019年の完成を目指して基本設計がスタートしました。また4月にはDPC（包括医療費支払い制度）を導入し、医療の質の向上と経営の更なる効率化に取り組んでいます。一方、将来の社会構造（少子高齢化）や医療ニーズの変化に対応する医療提供体制を考える「栃木県地域医療構想」が策定され、古い伝統のある当院も時代や社会の変化に応じて変わり続ける（革新）必要があります。

「伝統と革新」といえば、日本の伝統的な木版画に新しい西洋画の要素を取り入れ、明治・大正・昭和にかけて活躍した吉田博（1876-1950）の生誕140年を記念した回顧展を観る機会が昨年ありました。水彩や油彩で才能を発揮した博が木版画を始めたのは40代後半ですが、それは西洋画の微妙な陰影を版画で表現しようという前代未聞の挑戦でした。自然を描き続けた博の作品は水の流れや光の移ろいを驚くほど繊細に表現しており、その清新で透明感のある作品は海外でも高く評価されています。激動の時代に新しい表現を追い求めた吉田博のように、当院にも時代や社会の変化に対応してチャレンジし続けることが求められています。



光る海（1926年）吉田 博

今年の干支（えと）は酉（トリ）ですが、「果実が極限まで熟した状態」という酉の由来から「物事が頂点まで達した状態」が酉年と言われており、習い事で結果が得られたり学問や仕事で成果が得られるかもしれません。イギリスのEU離脱やアメリカの新大統領のように何が起こるか予想のつかない現代では、医療を取り巻く環境も大きく変動している状況ですが、時代がどんなに変わろうとも私たちがなすべきことは変わりません。地域との連携をより一層推進させながら、治らない病気や重い障害があっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられるよう、「地域包括ケアシステム」の構築を目指して努力いたしますので、本年も皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。